

F₁とうもろこしの短期間栽培(II)

◎北海道美瑛町, 菅野勝見さんの栽培例

○経営の概要

耕地面積が20.5 ha, その内牧草地は13 ha, F₁とうもろこしは6 ha, 家畜ビートも毎年栽培し, 乳牛頭数は50頭, その内搾乳牛は27頭, 牛乳は131 ton 出荷しております。

飼料作物栽培には特に熱心に取り組まれ, アルファルファの混播草地の造成も成功し, 限られた牧草地の反収を確保するため計画的な草地更新も行なっております。

草地更新の方法として, 数年前から一番牧草(収穫)利用後のF₁とうもろこし短期間栽培を行ない, 実際に自給飼料作物の生産増強にも役立てております。尚, 菅野さんは適品種の選定にも気をくばっており, 昭和52年の調査成績(大雪地区農業改良普及所)と, 菅野さんの御意見も合せて御紹介します。

F₁とうもろこし短期間栽培の調査成績

kg/10a

品 種 名	収穫時 熟度	倒 伏	生 草 取 量	風乾物 取 量	TDN 取 量	kg/10a		
						TDN 標準比	生草中 TDN比	風乾物 中雌穂 重比
ウイコンシン95日	糊 中	% 1	8,366	1,754	1,250	% 100	% 14.9	% 48.9
ニューデント75日	黄 後	2	7,143	2,095	1,563	125	21.9	61.2
ニューデント85日	黄 中	0	6,725	1,749	1,300	104	19.3	60.3



ニューデント75日の草姿

極早生でしかも総収量の高いサイレージ用品種である(別海町高木牧場現地圃にて)

註> 栽培概要

播種期 6月7日 栽植密度, 74 cm×21 cm 1本立
収穫期 10月7日 (6,435本/10a)

施肥量, 基肥 502化成 70 kg/10a

○短期間栽培に関する菅野さんの御意見

- 牧草の利用方法をどうするかがF₁とうもろこしの播種期との関連で大きなポイントになると思います。
- 利用が乾草調製の場合は,刈取からペールまで天候に恵まれて2~3日はかかり,雨でも降られると更に牧草の在圃日数が長びき,それだけF₁とうもろこしの播種期も遅れ,収量もあがりません。
- そこで今年は放牧利用を思いつき,強放牧によって草を徹底的に利用し,(反転耕起後)例年より早く播種することができ,実入りの良いF₁とうもろこしを収穫することができ喜んでます。
- 放牧地(放牧利用)の更新と最も結びつけやすく,採草地(刈取利用)の場合はグラスサイレージの調製と結びつけるのが良いと思います。

◎短期間栽培ですぐれた収量性を発揮するニューデント75日(極早生品種)——限界地帯での栽培にもすぐれた特性・収量性を発揮します。



ニューデント75日[JX22]の雌穂

子実の登熟が早く,収量性も高い。(別海町井出牧場現地圃にて)